

ちばだいい プレス

CHIBADAI
PRESS
千葉大学
広報誌

2020

VOL.

54

WINTER



特集

対談 田村 憲久 厚生労働大臣 × 横手 幸太郎 千葉大学医学部附属病院長

コロナ禍を乗り越えて、未来を支える人材を育成してほしい

宇宙の極限エネルギーの謎に挑む ハドロン宇宙国際研究センター

コロナ禍を乗り越える！
ニューノーマルなキャンパスライフ



CHIBA UNIVERSITY

田村 憲久 (たむら・のりひさ)
厚生労働大臣
1964年三重県生まれ。1988年、千葉大学法経学部(現法政経学部)卒業。伯父である衆議院議員・田村元氏の秘書を経て、1996年に衆議院初当選。2012年12月、厚生労働大臣に任命(第2次安倍内閣)。2020年9月、厚生労働大臣・働き方改革担当に任命(菅内閣)。

特集

対談

コロナ禍を乗り越えて、 未来を支える人材を 育成してほしい

横手 幸太郎 (よこて・こうたろう)
千葉大学医学部附属病院 病院長/教授
1988年、千葉大学医学部卒業。1996年、スウェーデン国立ウプサラ大学大学院博士課程修了。1998年、千葉大学大学院博士課程修了。2009年、千葉大学医学部附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 科長。2011年、同病院 副病院長併任。2020年4月、病院長・副学長に就任。

田村 憲久 厚生労働大臣

横手 幸太郎 千葉大学医学部
附属病院長

2020年10月、千葉大学OBである田村厚生労働大臣と、
医療の最前線で対応し続けているお二人に、現在の状況や

千葉大学医学部附属病院の横手病院長が対談しました。
今後の見通し、学生へのメッセージなど様々なお話を伺いました。

大臣と病院長の就任当手を振り返って

横手 田村大臣は2020年9月に厚生労働大臣に就任されましたが、コロナ禍の中、慌ただしい日々を過ごされているではありませんか？

田村 一度目の就任時もデング熱などが流行していましたが、新型コロナウイルス感染症はそれを上回る、世界的に深刻なパンデミックとなってしまいました。ただ、以前の大任経験のおかげで、「こ

う動けばいい」とある程度わかった上で動けるのは幸いでした。忙しさに変わりありませんが、過去の経験を活かして任務にあたる事ができています。横手病院長の就任も同年4月ですから、まさにコロナ禍のまっただ中ですね。

横手 はい。就任以降、新型コロナウイルス対策一色の日々でした。4~5月の第一波の時は最大33名の患者さんを受け入れ、感染症専用の陰圧室だけでなく一般病棟も開放して対応しました。6月に入ると少し落ち着いたことから、病床を再編成して医療資材の備蓄をし、第二波に備えました。そのおかげで、感染が拡大して

も手術や入院、外来診療を制限することなく続けることができ、これまで院内感染も防ぐことができています。

コロナ重症化の早期予測の研究に期待

横手 今回は再任ということで、田村大臣が力を入れて取り組んでいきたいことや意気込みをお聞かせいただけますでしょうか。

田村 まずはやはり、新型コロナウイルス感染症への対策です。感染拡大を抑えることと、日常生活を取り戻すことを両立するべく、

最優先で取り組んでいきます。それに関連して、オンライン診療の恒久化にも取り組みたいと思います。今は「コロナの影響で医療機関に行くのが怖い」という方々のために、緊急でオンライン診療も実施している状況です。今後は、平時に皆がしっかりオンラインで安全かつ信頼できる診療を行えるように調整していきたいと思っています。

横手 オンライン診療が普及すれば、コロナ対策になるだけでなく、患者さんの利便性もとてもよくなりますね。

田村 はい。こうしてパンデミックが起ってしまった以上、その中でできる限りのより良い医療体制を作っていく必要があります。

MESSAGE

日本は少子高齢化ですが、世界に目を向けると、皆さんと同じ若者たちが大勢います。自分たちの世代が世界を動かしていくんだという気概を持って、これからの日本を引っ張っていただきたい。今後の皆さんの活躍に大いに期待しています。

えもせず、かつ減りもしないのはなぜか、専門家を交えて分析しているところです。

感染症対策に配慮しつつ 様々な交流を持ってほしい

横手 7年前、当時の齋藤康学長と学生たちで、田村大臣を訪問したことがありました(ちばだいプレスvol.25参照)。

田村 はい、覚えています。後輩にあたる法経学部の学生たちからの質問に答え、学生時代のことや座右の銘についてお話ししました。

横手 その時のインタビューで、田村大臣は地元に戻ると、家族との時間を大切に過ごし、お嬢様と親子3人川の字で寝ているとお話されていました。

田村 そんなことまで話していましたか(笑)。ちょっと恥ずかしいですね。

横手 現在、お嬢様は大学を卒業され、アナウンサーとしてたいへん活躍です(TBSアナウンサーの田村真子さん)。これまでお嬢様に対して、職業や人生に関して何かアドバイスをされることはあったのでしょうか？

田村 私が世の中の動きに敏感に接する仕事なので、そういう職業に自然と興味を持ったのかもしれませんが。娘は大学時代に、4年間私と一緒に議員宿舎で生活していたのですが、よくこういう世界が嫌にならなかったなと思います(笑)。

横手 お父様の背中を見ていたのですね。大学生活といえば、このコロナ禍で、大学生の動きもずいぶん変わってきています。4月に入学して1回も学校に来ないまま10月を迎えて、ようやくキャンパスに通学できたという学生もいます。私たちの大学病院では、コロナの拡大を受けてしばらく医学生の実習を中止していましたが、第二波が落ち着いてきた8月末から、十分な感染対策をしてようやく実習を再開

しました。なるべく閉塞感なく、若い人たちが安心して未来へと羽ばたけるように、私たちが応援したいと思っているのですが。

田村 人間はコミュニケーションをとる動物ですから、そうでないと生きていくのは難しいですね。特に日本人は同じ地域にずっと永



横手 そうですね。私たち大学病院にとっては、患者さんの側に立った質の高い医療を提供することがもっとも大事な役割です。現在はコロナに対する決定的な治療法やワクチンがなく、今後再び感染者が増えた場合は医療崩壊につながりかねません。患者さんの多くは軽症または無症状ですが、一部に重症化が見られます。特に高齢者や基礎疾患を有する方が重症になりやすくとされており、その原因の一つとして、新型コロナウイルスが血管障害や炎症をもたらすことがわかってきました。千葉大学では、医学部の基礎研究を通じて発見された血管炎症の指標となる分子に着目し、大学病院で臨床研究を行い、重症化を早期に予測するシステムの開発に取り組んでいます。重症化の可能性のある人を早く発見し、適切な医療を提供して、医療崩壊を防ぐことが目標です。

田村 それはありがたいですね。今、重症化をどう防ぐかが大きな課題になっています。今後の研究結果に大いに期待しています。

横手 コロナについては様々なことが言われています。世界的に見て日本の対策はうまくいっているほうだと思のですが、いかがですか。

田村 日本人は衛生観念が高く、スキンシップをあまりとらないので、欧米のような感染拡大を防げているのは間違いのないと思います。ただ、第二波のピークを過ぎた9月から週平均500~600人の感染者が出ており、下げ止まりの状況が続いています。それほど増



住してきた民族なので、人の表情や雰囲気から伝わる情報にとっても敏感な国民性だと思います。今はリモートでのやり取りが広がっていますが、やはりそれだけでは伝わりにくい部

分があります。大学生としての節度を持ち、換気をしてマスクをつけるなど、しっかりコロナへの感染対策をした上でいろいろなコミュニケーションを図っていただきたいなと思います。それが今後の大きな財産になってくるはずですよ。

横手 交流という意味では、海外留学も大事な経験です。千葉大学ではグローバル人材の育成に力を入れているのですが、今は留学ができなくなり、今後の見通しが立っていません。今後の国際交流はどのようになっていくとお考えでしょうか。

田村 観光客の受け入れはまだまだですが、留学生に関してはPCR検査をした上で、日本の学生を受け入れてくれる国も徐々に増えてきました。日本が一定の経済力を持って豊かであることが、世界での発信力を維持することにつながります。このような大変な状況ですが、若い方々にはぜひ海外に行き、現地の方々と交流し、様々

大学生活は社会の予行演習です。大変なことも楽しいことも、想定外のことも食欲に経験してください。未来の社会を良くしようという思いで、大学での日々を過ごしていただきたいと思います。多くの良い仲間と出会い、人としての生活を豊かにしてください。

な経験を積んでいただきたい。千葉大学の皆さんにも、ぜひとも頑張ってください。

すべての人々に活躍の場を 与えるのが厚生労働行政

横手 千葉大学では、2007年から医学部、薬学部、看護学部という医療系学部が連携して共に学ぶ「専門職連携教育」(Interprofessional Education=IPE)を導入しています。これからは患者中心の医療となり、医師だけでなく看護師や薬剤師など、様々なスタッフの協力が大事になってきますので、多職種連携に学生時代から取り組んでいます。

田村 素晴らしいですね。近年はチーム医療とよくいわれていますが、それには相互理解がないと成り立ちません。皆が自分の力を最大限出せる環境を作る上では、学生時代から他の専門の人たちとコミュニケーションを取っておくことが非常に重要だと思います。

横手 私たち大学病院は、高度先進医療、あるいは最後の砦とし

ての役割が求められている場所です。これからの大学病院に対して、期待や要望はありますか。

田村 やはり大学病院は知の集積地であり、日本の医療を引っ張っていく存在です。医療人材を養成し、全国に輩出する大きな役割を担っていますので、ぜひ今後も頑張ってくださいと思います。

一方で、2020年度の医師臨床研修制度の改革や、コロナ禍での厳しい現状も伺っており、非常にご苦労をおかけしている現状です。厚労省としては、今後も予算面などでしっかり支援してきたいと考えています。

横手 前回のインタビューで、田村大臣が「光の当たらないところに光を当てるのが政治の大きな努めです」とおっしゃっていたのがとても印象的でした。今回の就任で、特にその点で心掛けていることはありますか。

田村 グローバルな社会になればなるほど、世界との競争が起こり、競争に取り残される方々がどうしても出てきます。厚生労働行政の役割は、現代社会においてなかなか力が発揮できない方々に、本来の力を発揮していただけるように環境を整えることです。セーフティネットを作り、あらゆる方々に役割を担っていただける社会にするべく、様々な対策を行っていききたいと思います。

MESSAGE



宇宙の極限エネルギーの謎に挑む ハドロン宇宙国際研究センター

宇宙から飛来する高エネルギー素粒子の観測やスーパーコンピュータを使った数値実験により、宇宙の極限エネルギー源の謎を解き明かすことを目的に、2012年に設立された千葉大学のハドロン宇宙国際研究センター(ICEHAP[アイスハップ])。同センターの吉田滋教授と石原安野教授にお話を伺いました。

●吉田 滋 (よしだ・しげる)
ハドロン宇宙国際研究センター長。千葉大学大学院理学研究院教授。東京工業大学大学院理工学研究科博士(理学)修了。ユタ州立大学高エネルギー宇宙物理学研究所、東京大学宇宙線研究所を経て、2002年に千葉大学に着任、2012年より現職。2019年仁科記念賞受賞。

●石原 安野 (いしはら・あや)
千葉大学大学院理学研究院教授。東京理科大学理学部第二部物理学科を卒業後に渡米。テキサス大学オースティン校大学院にて博士号(物理学)を取得。2006年に千葉大学に着任、2019年より現職。2017年猿橋賞受賞。2019年吉田教授と共に仁科記念賞受賞。

—ハドロン宇宙国際研究センターとはどのような研究機関でしょうか。

吉田 まず、ハドロンという言葉から説明しましょう。一般的には聞きなれない言葉ですが、ハドロンとは、あらゆる物質を構成する陽子や中性子といった粒子の総称で、例えば私たちの体や着ている服、テーブルや椅子などもハドロンの組み合わせでできています。ハドロンは、宇宙全体に存在していて、絶えず地球に降り注いでいますが、宇宙で生まれるハドロンは、地球上では考えられないほどの巨大なエネルギーを持っています。この高エネルギーハドロンが宇宙のどこで生まれ、どうやって大きなエネルギーを得ているのかを探るために2012年に設立されたのが、ハドロン宇宙国際研究セ

ンター(以下、ICEHAP)です。

石原 ICEHAPでは、理論や計算によるシミュレーションからの解析を目指す「プラズマ(※1)宇宙研究」と、実際に宇宙から飛来する素粒子を観測することでハドロンの発生源を探る「ニュートリノ(※2)天文学」の2つの部門を設けています。物理学は大きく分けると、理論物理学と実験物理学がありますが、ICEHAPは研究の精度を高める目的で、この2つを研究の両輪としています。

—2つの研究では、具体的にどのような研究をされていますか。

吉田 プラズマ宇宙研究部門は、粒子の活動が活発になるプラズマ状態を理論やシミュレーションといった側面から研究する部門で

す。先ほどの話に出た高エネルギーというのは、粒子が加速することで発生するので、どのような現象が宇宙空間で粒子を加速させているのかを理論の面から探っていきます。粒子加速源の候補として、超新星爆発やブラックホールなども研究対象となっています。

石原 ニュートリノ天文学部門は、様々な粒子の中でも宇宙から飛来する高エネルギーニュートリノに着目し、観測を通して宇宙のハドロン発生源を探る研究を行っています。先ほどプラズマ宇宙研究の説明で話がアがった粒子の加速について、宇宙のどこかで起こっている粒子を加速させる現象を、私たちは「エンジン」と呼んでいます。陽子や中性子といったハドロンは、そのエンジン天体から地球へやってくるまでに、宇宙空間の磁場やガスなどの影響を受けて方向を変えてしまうため、発生源を特定するのは困難です。そこで目つけたのが、他

物質の影響をほとんど受けず、直進の状態地球に到達する、すなわち発生源を特定できる可能性の高いニュートリノというわけです。

—ニュートリノを観測する南極でのプロジェクトについて教えてください。

吉田 この国際プロジェクトは「IceCube(アイスクューブ)」(※3)というもので、12か国が参加して実施しています。2011年の本格稼働以降、世界のニュートリノ天文学を牽引している存在だと言っていいでしょう。日本の研究機関で唯一、IceCubeの建設当初から参加しているのが千葉大学です。ICEHAPが設立される前からチームとして参加していましたが、私にとってはこれだけ大きな

プロジェクトに参加するのは初めてで、最初はどう貢献すればいいのか戸惑ったことを覚えています。けれども、2012年にICEHAPの設立以降、着実に実績を積み重ね、現在は高エネルギー宇宙ニュートリノに関する発見や成果にも主要チームとして貢献できていると自負しています。

石原 IceCubeで具体的にどのようにニュートリノを観測しているかという、南極点直下の1立方キロメートルの氷の中に5000個以上の光検出器を埋設しています。先ほどニュートリノについて、他物質の影響をほとんど受けず、直進の状態地球に到達すると言いましたが、実はニュートリノは地球すら通り抜けてしまうほど小さい粒子なのでなかなか検出しにくいのです。そんなニュートリノでも、ごくまれに原子核や電子とぶつかることがあり、そのときに生じる光反応を埋設した検出器で捉えるというのが、IceCubeの基本的な仕組みです。

— IceCubeでのこれまでの成果について教えてください。

吉田 エポックメイキングといったいいものとしては2つあります。1つはICEHAP設立から半年も経たない2012年5月、これまで観測されたニュートリノの中で、最も高いエネルギーのニュートリノの観測に成功したことです。この観測の解析結果を論文にまとめ、翌2013年に発表したところ、高エネルギー宇宙ニュートリノの实在の証拠となる発見との高い評価を受けました。これはかなり画期的な成果で、高エネルギー宇宙ニュートリノ天文学という分野が新しい一歩を踏み出した瞬間だったといっているかもしれません。

石原 2つめは、2017年にIceCubeが検出したニュートリノ事象の情報をもとに、世界中の観測施設が追尾観測を行った結果、ニュートリノ放射源であるエンジン天体の同定に世界で初めて成功したことです。2012年の初検出以来、IceCubeは多くの高エネルギー宇

宙ニュートリノを検出しましたが、その放射源が見つかったのは史上初めての快挙です。こちらも論文として発表し、科学誌「Science」に2018年の最も革新的であった科学ニュース10件のうちの1つに選ばれました。

— 今後のIceCubeプロジェクトの展望についてお聞かせください。

吉田 IceCubeの次のステップとして、2つの計画が進行中です。1つは、現行のIceCubeで使用している検出器の性能を改善した新型検出器約700台を埋設して、ニュートリノ観測の精度を高める「IceCubeアップグレード計画」。そしてもう1つが、IceCubeの施設自体を拡張して、1万台の検出器を埋設する「IceCube-Gen2(ジェンツー)」(※4)です。予定では、IceCubeアップグレード計画が2022年に建設開始、IceCube-Gen2は2026年から建設がスタートする運びとなっています。

石原 IceCubeアップグレード計画やIceCube-Gen2で埋設される新型検出器の候補として、ICEHAPが独自に開発した「D-Egg(ディーエッグ)」が検討されています。観測感度が2倍になるほか、従来の検出器に比べてスリムな卵型デザインに変更したことで、埋設の際に南



従来の光検出器をもとに、石原教授が中心となってICEHAPが独自開発したD-Egg



D-Eggが設置されるのは南極の氷河下のため、冷凍庫内で性能試験を行っている

極の氷河を掘削するコストを20%も抑えることが可能になりました。これまで不満だった点を解消でき、IceCubeプロジェクトにとって、これは大きな貢献になっていると思います。

— ICEHAPの今後の展望をお聞かせください。

吉田 ICEHAPは、2012年の世界最初の超高エネルギー宇宙ニュートリノの発見、そして2017年のニュートリノ放射源天体の発見で大きな貢献を果たしました。最初は数名しかいない小さなチームでしたが、着実に実績を積み重ねて評価を得て、千葉大学の看板センターと言える組織に育ってきました。今後もさらに多くのニュートリノのエンジン天体を発見し、宇宙のエンジンの正体を解き明かすための研究を進めていくのはもちろんですが、個人的にこれからの大きなテーマとなるのが後進の育成だと考えています。IceCubeプロジェクトもGen2という今後の展開が見えてきたところで、高エネルギー宇宙ニュートリノ天文学という新しいジャンルのバトンを若い人たちに手渡していくことが、私の使命だと思います。

石原 IceCubeが本格稼働してからもうすぐ10年になりますが、高エネルギー宇宙ニュートリノの放射源を同定できたのは1回だけ。

世界初の快挙とはいっても、個人的にはまだまだ物足りないというのが正直なところ。そういう意味では、性能を向上させたD-EggがIceCube-Gen2で正式採用されれば、ICEHAPの大きな成果に繋がると思います。これまで5000台強だった検出器がIceCube-Gen2では1万台に増えるので、ニュートリノ観測の新たな成果に期待したいですね。さらに言うと、検出器の開発からその検出器を使ったデータ取得・分析までは、10年ほどのスパンで動いているので、IceCube-Gen2だけでなく、次の10年先も見据えて、精度のより高い検出器の開発に挑戦していきたいと思います。そのときには、IceCubeも「Gen3」になっているかもしれませんね。

用語解説

(※1) プラズマ

高エネルギーにより原子が「自由電子」と「陽イオン」に分かれた不安定な状態のこと。物質の固体、液体、気体に次ぐ第4の状態を指していて、温度を上昇させていくことで発生します。自然現象では、雷やオーロラなどがプラズマにあたります。

(※2) ニュートリノ

素粒子のひとつ。ハドロンから発生し、電荷を持たず、他の物質とほとんど反応しないため、あらゆるものを貫通して光速で直進できる性質を持ちます。名前の由来は、電荷を持たない、つまりニュートラルな状態の粒子という意味から。日本国内の観測装置として、岐阜県飛騨市の「カムイオカンテ」、後継施設の「スーパーカムイオカンテ」が有名。

(※3) IceCubeプロジェクト

米国、欧州、日本など、12か国の研究機関が参加している高エネルギー宇宙ニュートリノ観測プロジェクト。南極の観測施設は2005年に建設がスタートし、2010年に完成。直径1km、深さ1450mから2450mの氷河下に5160個の検出器が埋設されています。

(※4) IceCube-Gen2

現在のIceCube施設を約8倍の広さに拡張、約1万台の検出器を埋設することで、高エネルギー宇宙ニュートリノの観測感度を5倍以上に高めるプロジェクト。Gen2の名前の由来は、次世代のGeneration 2と、IceCubeが設置されている南極に生息するジェンツーペンギンから。

MESSAGE

人は、立ち向かうテーマが困難であれば、それを解き明かしたいという気持ちが生まれます。私自身もそうだったので実感があります。若い皆さんにはぜひ、自分がやりたいと思うテーマに取り組むという姿勢、そして野心を抱いてほしいですね。

MESSAGE

大学での学び方は今後ますます多様化していきます。戸惑うこともあるかもしれませんが、大学はカリキュラムをこなすだけの場所ではありません。自分が進む道をじっくり見つめ直す機会と捉え、前向きに頑張ってください。



コロナ禍を乗り越える！ ニューノーマルなキャンパスライフ



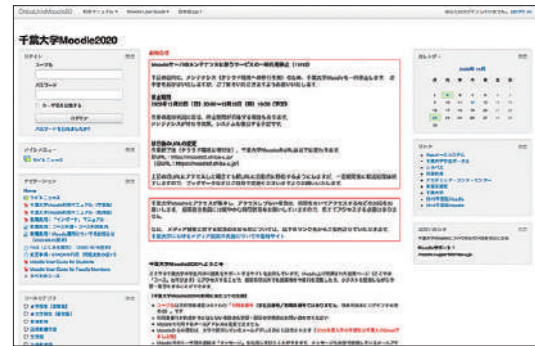
新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぎつつ、様々な形で学びの場を提供する千葉大学。2020年10月からは入構制限を解除し、教員、職員、学生が感染防止の工夫をしながら日常を取り戻しています。

◆ コロナ禍の中の授業体制

4月から入構制限を行い、すべての授業をオンラインによるメディア授業としていましたが、8月から感染症対策を行った上で一部の対面授業を段階的に再開。10月1日には入構制限を解除し、対面授業とメディア授業を複合させた学びを展開しています。

メディア授業への対応

新型コロナウイルス感染症は、密な環境を避けるため新しい学びの形を模索する契機となりました。千葉大学ではグローバル人材育成プラン「ENGINE」においてスマート・ラーニングの導入を検討していたこともあり、比較的スムーズにメディア授業の準備を進めることができました。



授業支援ポータルサイト「千葉大学Moodle」では、学生が授業ページにアクセスすることで、授業時間以外でも資料を閲覧したり、予習・復習をしたりできる。

対面授業を再開

実験の授業再開にあたっては、器具の消毒、換気、密を避ける座席の割り当てなど、できるかぎりの感染症対策を行いました。



▲ 加藤教授が担当する「物理学基礎実験I」の様子。アクリル板やアルコールスプレーなどの感染対策がとられている。

コロナ禍はまだ続く予想されますので、学生の要望を聞きつつ、講義の内容に応じてオンラインと対面での授業を行っています。特に実験では、学生の動線なども踏まえて感染対策を行っています。(教育学部理科教育講座物理学 加藤徹也教授)

実験の授業では、生徒各自が使える個人用キットや健康チェック票を導入しました。しっかりした対策は学生たちの安心感にもつながるので、今後も気を緩めずに準備します。(国際教養学部 普通教育係 物理実験技術補佐員 林美恵子さん)

オンラインでは、他の人の意見を聞いたり、ディスカッションができない点が物足りなかったため、対面授業が再開されて良かったと思います。(教育学部2年 大柿郁己さん)

オンラインの授業は、繰り返し視聴できる点が便利だと思いました。ただ、気持ちの切り替えは対面授業のほうがしやすいと感じました。実際、先生の話聞き、実験で手を動かすと集中できました。(教育学部2年 土屋貴嗣さん)



▲ 動画教材は、学生が実際に自分で作業しているようなバーチャル目録で作成。

「ウィズコロナ」がニューノーマルとなり、その中で学びの質をどのように高めていくかが大切です。海外の事例なども参考に、今後ますますICTを活用した多様な教育機会を提供していきたいです。(大学院国際学術研究院 三野弘文准教授)

対面とオンラインを併用する授業も

タンパク質研究の基本的な知識や最新の技術発展を紹介する「タンパク質科学」では、対面、オンデマンド型、同時双方向型(オンライン)から、受講方法を選択できます。受講画面には、左側に教員の様子や板書、右側に授業資料を表示し、画面にリアルタイムでコメントが入れられるアプリ(Comment Screen)を使って質問を受け付けています。

オンデマンド参加の学生が感想を残す場所を作ったり、優れた提出課題を紹介するなど、オンライン上でも学生間のつながりを作るよう心掛けています。実験の授業では事前学習のための動画教材で時間短縮をはかりつつ、グループ内の作業風景をスマートフォンで撮影し、オンラインの出席者に共有しています。(大学院理学研究院 寺崎朝子講師)



▲ 対面授業でも、オンライン等と同様にパソコン画面を通して授業を受ける。

◆ 課外活動

8月からは課外活動も段階的に再開。学内外の活動において、学生が感染予防策を踏まえた活動計画を作成、担当の教職員および学校医による確認ののち、活動を行うことができます。

マンドリンクラブ

マンドリンクラブは通常屋内で練習を行いますが、現在はかたらいの森で練習をしています。



9月まではオンラインのみで活動を行っていました。約半年ぶりにメンバーと会うことができ楽器の演奏を一緒に楽しめることが本当に嬉しいです。まだまだ先の見えない状況ですが、次の定期演奏会は無観客での開催を検討しており、例年のように素晴らしい演奏会にできればと思います。(理学部3年 越磨宏貴さん)



少林寺拳法部

少林寺拳法部は、マスクを着用して組演武や相対演練の練習に励み、今年唯一の大会となる全日本学生大会に臨みました。



▲ 武道場等の入口にはアルコール消毒液を設置しています。

練習するときにはマスクを着用し、窓を開け扇風機を回して換気をしています。これまではオンライン練習と自主トレーニングのみでしたが、対面での活動が再開して、互いに切磋琢磨し合うという部活動の良さを再認識することができました。(教育学部2年 鬼澤美結さん)



◆ イングリッシュ・ハウス

イングリッシュ・ハウスでは、スチューデント・アシスタントが担当する20分間の個別英会話セッションを受けることができます。4月以降オンラインのみでしたが、10月よりオンラインと対面の両方で実施しています。希望者はオンラインと対面のどちらか好きな方を選択することができます。オンラインについては、予約からセッションまで一貫した管理システムを導入し、効率の良い運用を目指しています。

初対面の人とのセッションの場合、オンラインより対面の方が双方の距離が縮まりやすく、話が盛り上がりやすい印象があります。(スチューデント・アシスタント 王佳月さん)



オンラインだとジェスチャーが見えづらい時間があるので、対面の方がコミュニケーションをとりやすいですが、オンラインを選択することで効率よく時間を使えるメリットがあり、選択肢が増えたと感じています。(工学部4年 遠山裕太さん)



入学以降オンライン上のみで会話していたスチューデント・アシスタントの方とやっと会うことができ、うれしく思います。オンラインセッションのみでも英語力の向上を実感していますが、オンラインでの意思の疎通の難しさは感じています。(園芸学部1年 森下蓮さん)



◆ 食堂

食堂では、10月よりフードコート1・2・3すべての営業を再開しました。感染対策の観点から、ピュッフェは休止し、テーブルにはパーティションを立てたり椅子の間隔を空けたりするなどの工夫をしています。消毒専用スタッフを配置し、食事が終了するたびに座席を消毒しています。

生協食堂では皆様が安心して食事できるように日々感染対策をスタッフが丸と取り取り組んでいます。どうぞお仲間お誘い合わせの上、ご来店ください。(店長 吉田憲司さん)



EVENT

大学祭 REPORT 2020

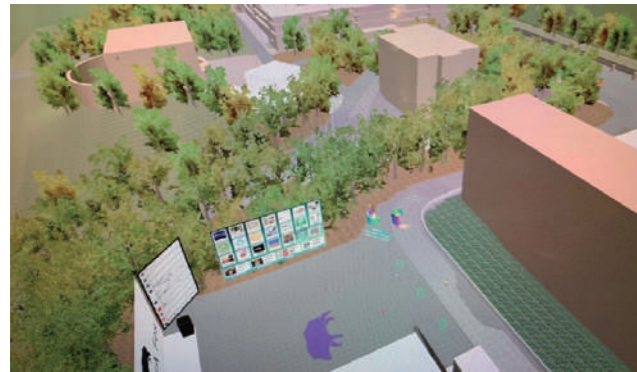
今年の大学祭は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を鑑み、亥鼻キャンパスの亥鼻祭は全面オンラインにて開催、柏の葉キャンパスのセンター祭は事前予約制の農産物直売会として開催しました。西千葉キャンパスの千葉大祭、松戸キャンパスの戸定祭は中止となりました。

12月5日、6日の2日間行われた亥鼻祭は、ウェブ会議システムを用

亥鼻祭



仮想現実空間をゲーム感覚で楽しめるアプリでキャンパス内のステージ発表を楽しむことができる



亥鼻キャンパスの建物が仮想現実空間において再現されており、キャンパス全体を歩くことができる

いた講演会や受験相談、動画投稿サイトでの音楽サークルによる発表など、オンラインならではのツールを用いた大学祭となりました。11月3日に行われた農産物直売会は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながらの開催となりましたが、来場者は新鮮な野菜や果物、花苗を求めて楽しんでいる様子が伺えました。

農産物直売会



開場前の様子。あいにくの天気だったが、野菜などは売り切れる盛況ぶりだった



人気のジャムやはちみつなども販売

INFORMATION

中山俊憲副学長が 国立大学法人千葉大学の 学長となるべき者に決定

現学長(徳久剛史)の任期が令和3年3月31日をもって満了することに伴い、中山俊憲副学長(未来医療担当)(大学院医学研究院長・医学部長)を、学長となるべき者として決定しました。11月4日に行われた記者会見では、「『世界に冠たる千葉大学』を目標に、千葉大学ブランドを醸成・発信する」と次期学長としての意気込みを語りました。



記者会見に臨む中山副学長

EVENT

「災害治療学シンポジウム in 千葉」を開催

10月24日亥鼻キャンパス・あいのな記念講堂にて、「災害治療学シンポジウムin千葉～台風被害とコロナ禍の複合災害に備える防災の最前線」を開催しました。このシンポジウムでは、行政・大学・病院が一丸となり、それぞれの取り組みや課題について、今後発生が予想される自然災害と新型コロナウイルス感染症との複合災害に直面しうる地域の皆さんに向けて講演発表や議論を行いました。本イベントの様子は動画でご覧いただけます。

(https://www.m.chiba-u.jp/about/symposium_saigai/)



参加者から寄せられた質問に答える熊谷千葉学長(左)、太田いすみ市長(中)、横手病院院長(右)

INFORMATION

医学部附属病院に新しい中央診療棟がオープン

2021年1月、医学部附属病院に地上6階、地下3階建ての新しい中央診療棟がオープンします。ヘリポートから直結した集中治療部や、手術室のあるフロアへ物品の出入庫を自動で行う立体倉庫、日本初導入の高精度放射線治療システムなどを整備。患者さんにやさしく、スタッフも働きやすい環境を整え、これまで以上に質の高い医療の提供を目指します。



中央診療棟外観



手術室を17室から20室に拡充

INFORMATION

「WEBオープンキャンパス」 を公開

受験生の皆さんに向けて、千葉大学の魅力や入試情報を案内する特設サイト「WEBオープンキャンパス」を公開しました。(<https://www.chiba-u.ac.jp/exam/weboc/index.html>)大学の概要や入学試験については動画でわかりやすく紹介。西千葉キャンパスツアー動画には、大学マスコットのニシ・イノ・マツも出演していますので、どのシーンに登場するか探してみてください。



千葉大生がキャンパス内を案内

EVENT

「生き物に学ぶ賢いドローンVR展」開催中

大学院工学研究院附属インテリジェント飛行センター(CAIV)は、「生き物に学ぶ賢いドローンVR展」をウェブサイト上で公開中です(<https://caiv.chiba-u.jp>)。CAIVで開発した技術、関連する航空やロボット技術史の展示など、4K3D対応カメラで撮影し、バーチャル空間上に再現しました。PCやタブレットを通して、実際に展示会場へ訪れているかのような臨場感を味わうことができます。



VR展示会場内の動画コンテンツは随時更新予定

EVENT

第5回セキュリティバグ ハンティングコンテストの 表彰式を開催

情報危機対策チーム(C-csirt)は、8月6日より9月22日まで行われた第5回セキュリティバグハンティングコンテストの表彰式を11月9日に開催しました。

本コンテストは、本学の情報セキュリティの向上と人材育成を目指し、情報セキュリティに関する講習を受講した学生が、学内で実際に稼働しているウェブサイトなどを対象として脆弱性調査を行い、レポートを提出するというものです。情報セキュリティの現場で活躍する外部審査委員がレポートを審査し、優秀な成績を収めたチームに賞が贈られました。



表彰された学生の皆さんと本学情報担当の山田理事(前列中央)

もっと
知りたい
千葉大学

松戸キャンパスにある 「移管記念」と刻まれた 自然石は?

園芸学部の前身である千葉県立園芸専門学校(1909年創設)は、経済面などを理由に、県議会によって「廃校」の決議をされました。しかし、OBたちが国に何度も陳情した結果、29年に国立移管が認められ、存続が決まりました。イタリア庭園内に残るこの記念碑には「本校で学ぶ者は、昔日の苦難と奮闘の歴史に鑑み、精励力行し、母校の発展に尽すことを願う」というOBたちの熱い思いが刻まれています。(国際学術研究院 見城悌治)



国立移管記念碑



CHIBA TOMO NEWS

千葉大学マスコット「ニシ」、「イノ」、「マツ」より
ニュースをお届けします！

vol.03

CHIBA TOMOものがたり 7時限

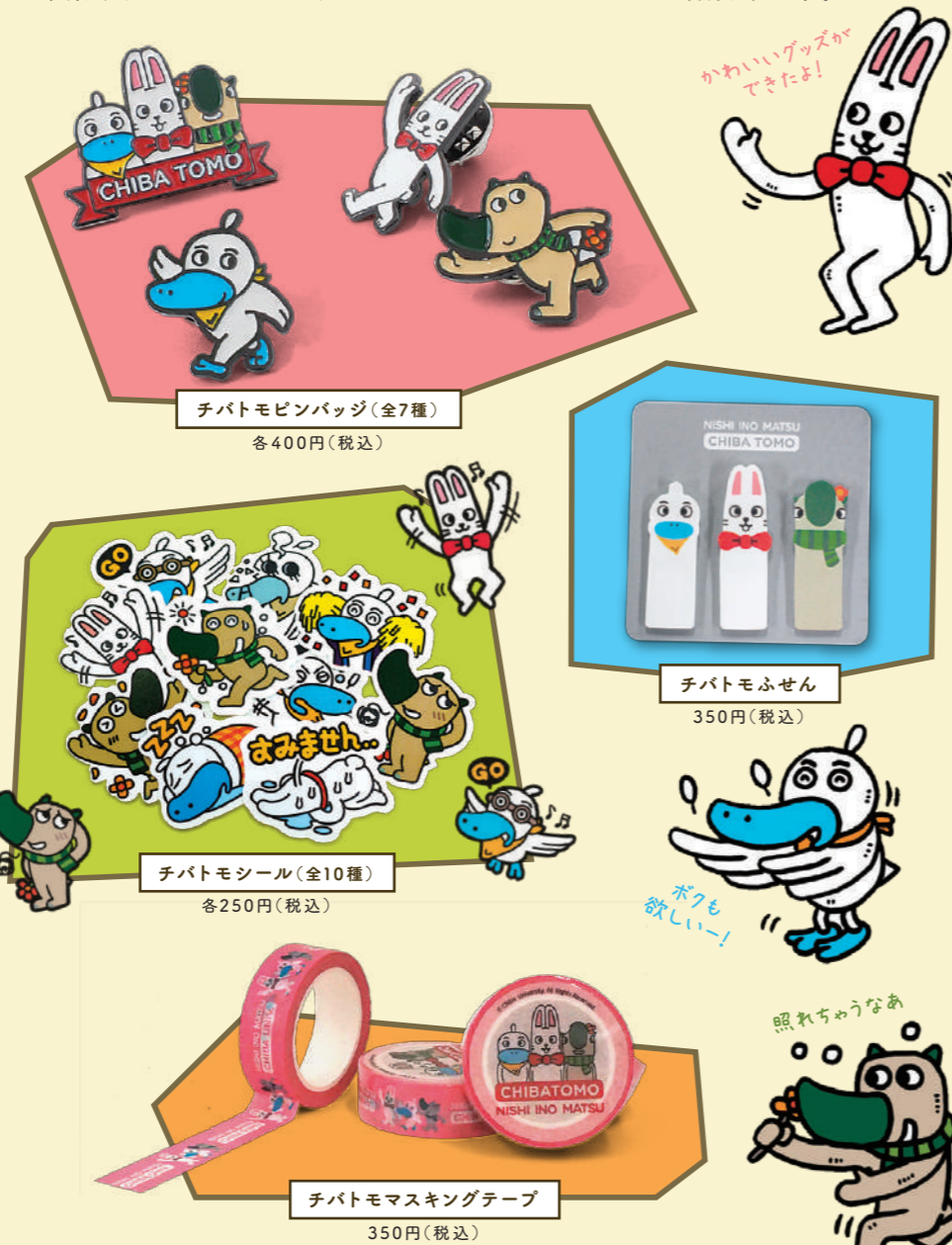


ニシ お正月といえば餅つき。月でついたお餅は宇宙一だと思っている。
イノ お正月といえばたこ揚げ。どっちが高く飛べるか競争している。
マツ お正月といえば門松。実家の花屋の門松は大人気で毎年大忙し。

CHIBA TOMO とは...
2019年に千葉大学に誕生した、3つのキャンパスをかたどったマスコット、うさぎの「ニシ」、かもめの「イノ」、さいの「マツ」の3人組。

CHIBA TOMOグッズが誕生しました!

ニシ・イノ・マツのオリジナルグッズ全商品を一挙ご紹介いたします!
西千葉キャンパス・インフォメーションセンター(松韻会館1F)で販売中です。



他にも、おしななノートや
おいしいコーヒーなど販売中です!
ぜひ見に来てください!



千葉大学基金はチャレンジを支え、人の未来を育てる基金です



たくさんのご寄付や応援メッセージを ありがとうございました!

新型コロナウイルスの影響で経済的支援が必要な学生のために、
卒業生、在学生の保護者様、その他学内外からたくさんのご寄付を賜りました。
心よりお礼申し上げます。
千葉大学は、学生が学業に専念できるよう、これからもサポートしてまいります。
引き続きご支援をお願いいたします。

令和2年度 9月末日現在の
寄付状況 寄付件数 **5,735**件 寄付総額 **1億7,819**万円

3億円規模の学生支援事業を実施
コロナ禍に伴い学生生活に支障を来している学生に向けて、返還免除併用型の奨学金10万円の貸与や授業料の免除、メディア授業のための環境整備、メディア授業実施における学生アルバイトの雇用など、総額3億円規模の緊急学生支援事業を実施しました。これらの事業は、「千葉大学基金」が重要な財源となっています。

地元学生のために! 千葉商工会議所女性会様からの支援
「コロナ禍でアルバイトもできずに経済的な不安を抱えている学生がいると耳にしました。わたしたち地元の応援が少しでも学生の支援となれば」と、千葉商工会議所女性会様から寄付金と、手作りの「つるし雛」をいただきました。
「千葉大生の皆さんが健康に、心豊かに学生生活を送ってほしい」(高梨会長)との応援メッセージが込められています。

お申し込み方法	
銀行・ゆうちょ窓口でのご寄付	千葉大学基金室(043-290-2014)までご連絡ください。お名前・ご住所をお伺いし、振込用紙を送付いたします。
クレジットカードでのご寄付	千葉大学基金のホームページからご寄付をお願いいたします。
遺贈によるご寄付	遺贈によるご寄付も承っております。詳しくは、千葉大学基金室(043-290-2014)までご相談ください。

お問い合わせ先 **千葉大学基金室** **メール** kikin@office.chiba-u.jp
043-290-2014 **ホームページ** https://kikin.chiba-u.ac.jp 千葉大学基金
ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。 **住所** 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33



INDEX VOL.54

02 対談 田村 憲久 厚生労働大臣 × 横手 幸太郎 千葉大学医学部附属病院長

コロナ禍における医療の最前線に立つお二人に、
 新型コロナウイルスをはじめ様々な話題についてお話をいただきました。



02

06 宇宙の極限エネルギーの謎に挑む ハドロン宇宙国際研究センター

宇宙から飛来する高エネルギーニュートリノの観測で世界を牽引する
 千葉大学の研究チームの実態に迫ります。



06

10 コロナ禍を乗り越える！ ニューノーマルなキャンパスライフ

新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、段階的に対面授業や
 課外活動を再開しているキャンパスの様子をレポートします。



10

12 TOPICS / もっと知りたい千葉大学

14 CHIBATOMO NEWS

[表紙(左から)]

田村 憲久 (たむら・のりひさ)
 厚生労働大臣

横手 幸太郎 (よこて・こうたろう)
 千葉大学医学部附属病院 病院長・教授



今号の特集では、千葉大学OBである田村憲久厚生労働大臣が登場。横手幸太郎
 千葉大学医学部附属病院長とのOB同士の対談が実現しました。医療の最前線
 に対応し続けているお二人に、現在の状況や今後の見通し、学生へのメッセージな
 ど様々なお話をさせていただきました。田村大臣のご家族のお話も出るなど、和や
 かな雰囲気の中対談が行われました。

(撮影: 衆議院第一議員会館)